

令和 5 年度 墨田区立中和小学校 経営報告書

校長名 影山 祥仁

学 校 目 標	歴史と伝統を受け継ぎ、教職員、保護者、地域社会が一体となって、さらなる発展を目指す。
目 指 す 学 校 像	教育目標達成のため、全教職員が家庭や地域との連携を図りながら、校外の教育力を効果的に活用し、質の高い教育活動を意図的・計画的・組織的に実施できる学校。
目 指 す 子 供 像	自らの生き方を考え、自らの力で将来を切り開くために必要な学力、自他を大切にす る優しさとレジリエンス、たくましい体と強い意志をもつ子供。
目 指 す 教 師 像	保護者や地域の期待に応え、学校組織の一員としての自覚と責任をもち、教育目標の 実現と教育課程の計画的実践に全力で取り組み、児童のよさや可能性を最大限に引き 出し、伸長し、個々の将来につなげていくために、組織的に取り組める教職員集団を 目指し、児童や保護者、地域の方々とのコミュニケーションを大切にされた教育活動を行 う。

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価						
		達成状況		自己評価 について	改善策に ついて					
		取組指標	成果指標							
各 教 科 等 指 導 等	○確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施する。	4	4	○分析 ・改善方策 ①校内研究として ICT を活用した授業に取り組み、研究授業を年6回以上実施することができた。 ②ICT を活用した授業を全授業の80%以上で行うことはできたが、学習内容の定着につながらない部分が見られた。ICT 機器に頼らず、アナログ的な部分でのふりかえり等検討していく。 ③話し合い活動では、ロイロノートを有効活用することができた。深い学びにつながる教材開発を行う。	4	4				
	①ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す授業作りを行う。						4	4	3	4
	②モノグサアプリやミライシードの活用による基礎基本の学習の定着を図る。									
	③自力解決的学習の充実を図り、児童の深い学びにつなげる。	4	3		4	4				
	○特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行う。	4	3		①月1回は校内委員会を開催し、支援を必要とする児童へ早期に対応策を練り、実施・評価・改善を行うことができた。必要に応じて臨時校内委員会も開催した。 ②年2回巡回指導講師による教職員対象の校内研修会を実施し、そよかせ学級との交流授業を月1回以上できた学年とできなかった学年があった。年間計画を見直す。	4	4			
	①個別指導や支援を必要とする児童への配慮を充実させる。							3	3	3
	②特別支援教育に関する、教職員の理解と知見を深める。									
	○社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	3	3			①年3回の幼保小中連絡協議会の取組を充実させることができた。幼稚園や保育園との授業交流会や学校行事の見学等はできた。次年度は、保育参観や交流行事など、小学校側が幼稚園や保育園に	3	3		
	①堅川中学校ブロックの幼保小中一貫教育									

様式 4

	<p>の連携を強化する。 ②地域教材の開発や地域人材の活用を図り、子供の「生きる力」を育む。</p>	3	3	<p>出かけて行くことも検討する。 ②墨田区学校支援ネットワーク授業を有効活用し、出前授業の充実を図ることができた。今後も積極的に利用していく。</p>	3	3
	<p>○教員の指導力・授業力向上のための、組織的な取組等を行う。 ①年3回 ICTを活用した相互授業観察を実施し、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行う。 ②若手 OJT 研修を開き、各自の悩みや困難事項を交流し、同僚性を高める。</p>	3	3	<p>①年3回の授業観察を教員同士による相互授業観察として位置付けたが、補教等の体制をとることが難しく、じっくり見合うことができなかった。学校体制を考えていく。ICTの活用授業に関しては、校内研究と絡めて深めることができた。</p>	4	4
		4	4	<p>②OJTの体制を主任教諭や主幹教諭と連携し、月1回以上、主任教諭主導のOJT研修を実施することができた。若手教員以外も学びの場ができることで、同僚性を高めることができた。お互いに困っていることを解決できるような研修にしていく。</p>	4	4
<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<p>・音楽会はとても素晴らしく、感動した。これからも子供たちに、行事を通して達成感や充実感を味わわせ、学習等に対するより良い環境を提供してほしい。 ・タブレット学習の効果や課題をもう少し分かりやすく提示してほしい。使用しているアプリケーションの効果や課題を検討し、保護者に知らせてほしい。</p>					

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	<p>○いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。 ①支援を必要とする児童を取り巻く児童に対する心の育成を強化し、いじめや差別のない学級・学年・学校づくりに努める。</p>	4	3	<p>①児童一人一人の課題解決に向けて、毎週末の生活指導夕会にて児童の状況等について共通理解を図ることができた。こころ部を中心に月1回はいじめや不登校の事案について確認し共通理解の時間を確保したが、時間が短く、十分に話し合えないことがあった。働き方改革を意識しながら時間確保のため年間計画を見直す。</p>	3	4
	<p>②児童一人一人が自尊感情を育めるよう、意図的な励ましの時間や、子供同士で互いのよさや成長を認め合う機会を設定する。</p>	4	3	<p>②児童が学校生活での悩み事などを教員に話しやすい環境を整えるため、放課後話しタイムを月1回以上設定し、何気ない会話から、悩みを聞く事もあり、有意義な時間だが、今後も早期対応と児童の心に寄り添う丁寧な支援を行っていく。</p>	4	4
	<p>○基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。 ①中和スタンダードを励行し、学習規律や生</p>	4	3	<p>①中和スタンダードを励行し学習規律や生活指導面での共通理解を図ったが、共通理解が不十分</p>	4	4

様式 4

	活面での共通理解を図る。 ②共に考える道徳の授業により、人権尊重の態度を育む。	4	3	な場面が見られた。見直しをしていく。 ②日々の道徳授業を充実したり、児童間のトラブルに対して早期対応を行ったりすることができた。	4	4
	○危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。 ①緊急時の避難行動、集団下校の様子の確認及び安全指導の徹底を図る。 ②危機対応のマニュアルを徹底し、教職員の危機管理意識を高める。	4	3	①避難訓練や安全指導で、危機管理に対する児童の意識を高めることができた。今後は、想定外のことも考え、あらゆる危険に対応できるよう、幅広い訓練を行う必要がある。 ②看護当番、校庭見守り等の徹底と月1回の安全点検の実施を行うことができた。	4	3
		4	3		4	4
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	・空き教室がない状況なのは承知しているが、トラブル等で子供が落ち着ける場所を確保してほしい。 ・不登校の児童に対し、丁寧な対応をしていると思うが、今後も学校とのつながりを切らないようにしてほしい。				

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運営	○経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行う。 ①主幹、主任教諭による組織的な体制づくりと4部会の計画的な企画・実施 ②教職員のコミュニケーションを大切にしながら多様なマンパワーの働きやすい居場所作り	4	3	①Teams を活用した情報交換を常に実施し、チームとして教育活動に取り組むことができた。ただ、実際に話し合う時間の確保が難しく、共通理解を図りにくい場面が見られたので、4部会で話す時間の確保を計画していく。 ②教職員間の同僚性を育むため、意識的に声を掛け合ったり、手が足りていない作業等のフォローを行ったりすることを意識できた。	4	4
	○子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。 ①「よく考えて工夫する子供」を重点目標とし、校内研究を通して、児童の自ら学び考える力の向上を目指す。	2	4	①校内研究授業を年6回以上実施し、子供たちが自ら工夫して取り組めるような授業を行うことを意識しながら取り組めた。一人1台端末を活用し、個別最適な学びにつながるような授業研究を行うことができた。次年度も引き続き行う。	3	4

様式 4

<p>○適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。 ①全教職員がよい教育環境作りを意識し、掲示物等の工夫を行う。</p>	4	3	<p>①全教職員による環境整備を年3回以上実施し、教室や廊下の環境整備に努めることができた。学習スタンダードの共通理解も図っていく。</p>	4	4
<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<p>・安全点検や環境整備を定期的に行っていることがわかり、安心している。 ・様々なトラブルや課題に対し、今後も学校として組織的に対応してほしい。</p>				

項目	取組目標	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況		○分析 ・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	○教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行う。					
	①学校公開、学校・学年便り、学校情報メール、掲示板、ホームページ等を充実させる。	4	3	①学校日より、学年だよりの電子化を図り、学校生活の様子を伝える機会を増やしているが、電子ベースで伝え切れているか検討が必要である。ホームページの更新頻度が少なかったため、担当教諭だけでなく、組織的に取り組んで行くようにする。	3	3
	②PTA 役員会や連絡協議会等で学校経営方針や日常の教育活動を報告する。	3	3	②毎回の会議で学校の様子を伝える事ができたが、全家庭にも発信できる手だてを考えていく。	3	3
	○保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。					
①学校行事や学校公開を通して、保護者や地域の方に子供たちの成長を見てもらう。	3	3	①土曜授業を毎回公開授業とし、子供たちの活動を見てもらう機会をもった。行事や出前授業を当てることもあるので、通常授業公開の時間を確保していく。	4	4	
②地域の教材化、地域人材の活用で学びの場や学びの機会を拡大する。	3	3	②地域と連携している様子を学校日よりや学年日より、ホームページ等で発信してきたが、教育目標や教育方針についても、ホームページ等の充実を図っていく。	3	3	
○開校150周年記念事業に向けた取組を推進する。						
①校内での周年委員会を立ち上げ、次年度に向けた準備と地域や保護者への発信を行う。	3	3	①年度当初に周年準備委員会（主幹教諭中心）を立ち上げ、10月までに協賛会の発足、PTAの周年委員の立ち上げを行った。次年度に向けた話し合いを始めているが、目の前の行事に追われ、周年への意識がまだ向いていないので、時間の確保から行う	3	3	
<p>学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等</p>	<p>・教員と保護者や地域とのコミュニケーションが不足していると思う。子供たちの活動の様子や学校の様子をさらに発信してほしい。 ・子供の楽しく安全に登校している姿を見て、校長先生はじめ教員の方々や主事さんの日々の適切な関わりがあってこそだと思う。</p>					

2 令和5年度学校評価のまとめ

- ・ICT機器の活用を図る学習指導の工夫の結果、一定の成果を上げることができた。今年度の課題を踏まえ、タブレットを使うことが目的ではなく、文房具として使いこなし、個別最適な学びに向けた教材整備を実施していく。
- ・記憶定着アプリの活用について、成果と課題を明らかにし、使用を継続していくのか教師・児童・保護者のそれぞれの視点も含め検討していく。
- ・児童が自ら考え、工夫し、問題を解決していくことができる場面を、学校全体で意図的、計画的に設定し、指導していけるように、教職員間の共通理解を図り、研修や研究を積み重ねていく。
- ・保護者や地域から学校との連携不足が感じられる。次年度はこれまで以上に開かれた学校を目指し、風通しの良い学校にしていく。
- ・今後も、保護者や地域の皆様が学校に対する思いや期待をしっかりと受けとめ、墨田区の伝統校として、150周年の諸事業を計画実施することを通して、さらなる発展ができるよう、教職員一丸となって邁進する。

以上の通り報告いたします。

墨田区立中和小学校 校長 影山 祥仁 公印